

【2021 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
共生学		選択	1	1.2	前期 (後半)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
前川 真奈美	B304	manami.maekawa	月曜日 10:40~12:40		
授業の目的・概要	<p><目的> グローバル化の進む現代社会において「共生」は重要な課題の一つである。本講義では、共生を考えるうえで看過できない偏見や差別について、それらが生じる心理メカニズムや実態を理解することを目的とする。さらに、それらの知識をもとに自分自身や周囲を振り返り、「各人が相違を認め合い、相違を超えて人間らしく生きるにはどのような工夫や取り組みが大切か」を考察することを目的とする。</p> <p><概要> 本講義では社会心理学の視点から、偏見や差別についてこれまでに得られている代表的な知見を解説する。さらに、国籍、ジェンダーとセクシュアリティ、高齢者、障害の4つのテーマを取り上げ、現代の偏見や差別の実態を概説する。加えて各テーマでグループワークを行い、「共生」に向けた取り組みについて理解を深める。</p> <p>本講義では、Microsoft Teams を用いた同時双方向型の遠隔授業を行う。</p>				
学習上の助言	講義内容に関する質問は、オフィスアワーの他に、講義中およびリアクションシートでも受け付ける。積極的に活用して理解を深めてほしい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	偏見や差別はなぜ起こる? /編:北村英哉、唐沢穰/ちとせプレス/2018年				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	偏見や差別が生じる心理メカニズムやその実態を理解し、具体的に説明できる。			HSU(1)(2)	
②	共生社会に向けて必要な工夫や取り組みについて、自分自身の考えを具体的に述べることができる。			HSU(1)(2)(5)(6)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション:グループワークを通して、無意識のうちに形成されている「自分のなかでのあたりまえ」に気づく。	同時双方向型授業 (グループワーク)	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	1	
2	国籍:ステレオタイプ、偏見、差別について学ぶ。国籍に関する基本的な知識や、偏見や差別の実態について学ぶ。	同時双方向型授業	講義後に小レポートを提出する。題目は講義中に提示する。	5	
3	ジェンダー、セクシュアリティ 1:ジェンダーとセクシュアリティに関する基本的な知識や、偏見や差別の実態について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	3	
4	ジェンダー、セクシュアリティ 2:グループワークを通して、「共生」に向けた取り組みについて理解を深める。	同時双方向型授業 (グループワーク)	講義後に小レポートを提出する。題目は講義中に提示する。	5	
5	高齢者 1:高齢者の特徴に関する基本的な知識や、偏見や差別の実態について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	3	
6	高齢者 2:グループワークを通して、「共生」に向けた取り組みについて理解を深める。	同時双方向型授業 (グループワーク)	講義後に小レポートを提出する。題目は講義中に提示する。	5	
7	障害 1:発達障害に関する基本的な知識や、偏見や差別の実態について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	3	
8	障害 2: グループワークを通して、「共生」に向けた取り組みについて理解を深める。	同時双方向型授業	講義後に小レポートを提出する。題目は講義中に提示する。	5	

【2021 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照。							
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	30	0	0	70	100	
総合力指標	知識・技術力		0	10	0	0	8	18
	思考・推論・創造する力		0	10	0	0	20	30
	協調性・リーダーシップ		0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力		0	5	0	0	12	17
	コミュニケーション力		0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲		0	0	0	0	10	10
問題を発見・解決する力		0	5	0	0	20	25	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法		
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	学期末にレポートを提出してもらい評価する。(このレポートは小レポートとは別なので注意すること) レポートのテーマは講義中に提示する。評価は、内容（聞かれたことに答えているか、自分の意見を述べているか）、文章の構成、誤字・脱字等で行う。				Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	毎回の講義終了時に Teams 上でリアクションシートの提出を求め、講義内容に関する気づき、発見、疑問などを記述してもらおう。内容の妥当性や、問題発見能力を評価する。(全 8 回で 10 点満点) また、4 つのテーマそれぞれで小レポートの提出を求める。課題内容は講義中に提示する。内容の妥当性や、自分の意見を明確に述べているかを評価する。(15 点×4 つ=計 60 点満点)				リアクションシートについては、次回の冒頭に、課題の総評やコメントへのフィードバックを行う。 小レポートについては、Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
* Microsoft Teams を用いた同時双方向型の遠隔授業を行うため、授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。特に、グループワーク等の際にはカメラをオンにしてもらうため、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意してほしい。 * 今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によってシラバスの変更が行われることがある。 * 講義中にグループワークを行う。自分以外の人の考えを知り理解し寄り添う体験を通して「共生」に対する理解を深めてもらうことを目的としているため、積極的な態度で受講することを望む。								
教員の実務経験：公認心理師資格を有し、2 年間の現場経験を有する。 実践的授業の内容：専門性とこれまでの経験を生かし、実践的な情報を交えながら授業を進める。								